

招待講演

グランドチャレンジ:日本の原子力の大挑戦
原子力政策と課題

Grand Challenge of Nuclear Community in Japan

*岡 芳明¹¹内閣府原子力委員会

1. グランドチャレンジ：日本の原子力の大挑戦、

見直し後の原子力委員会、グランドチャレンジとは、原子力委員会/省庁/電力業界/メーカー/研究開発機関/大学等の組織と個人にそれぞれのグランドチャレンジがある。最大の課題は関係者が問題を認識できるかどうか。原子力委員会はなぜ司令しないのか、原子力政策を考える方法、日本の原子力：成果と停滞、原子力発電所の輸出：日本が輸出を考えるべきだったのは1970年代、韓国の原子力研究開発と国際展開、日本は？ 日本の原子力の1990年代からの停滞の原因と対策：まず課題の認識を、なぜグランドチャレンジが必要か、なぜ英語で検索する必要があるのか。

2. 原子力委員会の活動

主な原子力委員会作成文書、原子力利用に関する基本的考え方、技術開発研究開発に対する考え方：各ステークホルダーの果たすべき役割、プルトニウム利用の基本的考え方、高速炉開発について（見解）、核燃料サイクルと高速炉：中期的には再処理と直接処分以外に「使用済み燃料は資源なので貯蔵する」方策がある。フランスの核燃料サイクル政策、人材育成（見解）、大学原子力教育、根拠に基づいて帰納的に思考する必要がある・原子力でも、軽水炉利用について（見解）、TMI事故後の米国の原子力発電量増加と事故率低減、なぜ自主的安全性向上が重要か

3. コミュニケーション

根拠に基づく情報体系の整備（見解）コミュニケーションのインフラ作り、日本のコミュニケーションの課題例、原子力は極めて危険？自分で自分の首を絞めていないか、リスクコミュニケーション？・容易でない、安全（リスク）の説明は規制側の役割

4. 研究開発機関の役割と知識基盤

JAEAの中期目標の変更について（答申）、原子力利用の知識基盤、日本原子力研究開発機構の役割の変革、原子力関係組織の連携プログラム、連携でムラからの脱却を、連携・協働のイメージ、

5. 日本の原子力政策の考察

演繹型ではなく帰納型の思考を、上から目線では帰納型の思考ができない、研究や安全の話に偏りすぎ、餅は餅屋に、餅屋がいなければ育てるしかない、自己改善の仕組みを持つのが良い、生き残りをかけて努力する必要がある、負けに不思議の負けなし、まず問題の認識を

6. 原子力の役割

日本の課題の例、原子力発電の特徴と役割、原子力は発展性のある分野

*Yoshiaki Oka¹¹Japan Atomic Energy Commission